



経営計画について話す川崎重工業の橋本康彦社長=11月2日、東京都港区

川崎重工業が建造した世界初となる液化水素運搬船=神戸市中央区東川崎町2



■組織再編  
指針を踏まえ、事業体制を再編成する。21年4月、造船とエネルギー・環境部門を統合。液化水

器メーカーのシステムズ

(神戸市中央区)と開発し

た国産初のロボットを使

う。遠

隔で操れるようすれば、

少ない医療スタッフで手術

が可能になるとい

る。リモート社会の実現へは、本年度から、国内医学界と協力し、内視鏡手術を支援するロボットで遠隔手術の試みを始める。医療検査機

器メーカーのシステムズ

(神戸市中央区)と開発し

た国産初のロボ

トを使

う。遠

隔で操れるようすれば、

少ない医療スタッフで手術

が可能になるとい

# 川重「時代が求める姿」追求

## 10年後の経営ビジョン公表

川崎重工業（神戸市中央区）は、10年後に目指す将来像として先月公表した経営指針「グループビジョン2030」で、新たな注力分野を掲げた。人ひとの安全・安心につながる「リモート（遠隔）社会」、「人と物の移動変革」、水素を中心とする「エネルギー・環境」の三つだ。新型コロナウイルス感染拡大を契機とする社会の変化を踏まえ、橋本康彦社長は「成長事業に投資しながら、時代が求める姿に（川重を）変容させたい」と力を込める。

### ■ロボット

リモート社会の実現へは、本年度から、国内医学界と協力し、内視鏡手術を支援するロボットで遠隔手術の試みを始める。医療検査機器メーカーのシステムズ（神戸市中央区）と開発した国産初のロボットを使い、遠隔で操れるようすれば、少ない医療スタッフで手術が可能になるとい

（長尾亮太）

政府には「救難病院船」を提案。オフロード車や非常用発電設備など多彩な川重製品と並んで遠隔の手術支援ロボも配備し、地域を離れて操作するようにすれば、少ない医療スタッフで手術が可能になるとい

### ■環境など

市場の早期回復に貢献する。コロナ禍による航空需要の急減で、川重も稼ぎ頭の航空機部材の製造が打撃を受けしており、その回復にもつなげたい考えだ。

移動変革に向けては、ロボットと乗り物、航空の技術を融合し、社会課題に対応する。コロナ禍で利用が拡大した宅配向けは、無人ヘリコプターが荷物を長距離搬送し、自走式ロボット

が玄関先まで届ける構想を持つ。非接触サービスによる感染防止と人手不足の緩和に貢献する狙い。

エネルギー・環境分野は、脱炭素社会を目指す動きが世界で加速している。「水素を大量輸送するシステムを確立することで調達価格を引き下げ、普及を図る」と橋本社長。

新分野の開拓などで30年度の売上規模を過去最高だった19年度の1・5倍に当たる2兆5千億円へ押し上げるシナリオを描き、グループ内の力を集める。

## 遠隔、移動変革、水素に注力

■組織再編  
指針を踏まえ、事業体制を再編成する。21年4月、造船とエネルギー・環境部門を統合。液化水

素運搬船や水素ガスタービン、水素貯蔵タンクなどを開発する両部門の力を合わせ、水素事業を強化する。

21年10月には、鉄道車両部門を分社化する。難易度が高い発注や鉄道システム全体に及ぶ需要に応えるため、他社との連携を模索する。

川重グループ内でも航空宇宙部門との連携を強化。同部門で培った生産手法を取り入れ、品質管理やコスト低下に役立てる。

時期に二輪車事業も分社化。消費動向に柔軟に対応するため意思決定を早め、顧客層の高齢化や環境規制の対応など、業界全体の課題の解決へ業界内で連携する。

新分野の開拓などで30年度の売上規模を過去最高だった19年度の1・5倍に当たる2兆5千億円へ押し上げるシナリオを描き、グループ内の力を集める。

2020年12月2日 水曜日 神戸新聞分

兵庫が誇る日本の川崎重工が描く、将来的構想に力を貸すのは君達世代です。  
特に理系諸君の今後の奮起と文系諸君の企画力を以て、兵庫からの強い発信を期待します。